海外日本語ボランティア活動
コロナ騒動の渦中に

コロナウイルス騒動に遭遇し、帰国にも難儀を極めた二人の報告です。日本にたどり着いたものの、成田のホテルで結果を待ちながら待機を強いられ、まさに苦痛を伴う帰国でした。

マレーシアがロックダウンになった後、急遽スカイプを活用しての授業を継続する努力をしました。このことで、JCTIC で学ぶ生徒さん達に安心感やさらに前進する勇気を呼び起こすことができました。図らずも、海外での思いもかけない事態に遭遇した体験談になりました。

JCTIC（コタキナバル）その１

【報告　その１】　　（埼玉県さいたま市）
滞在期間：2020 年 1 月 6 日～4 月 2 日（88 日間）
活動場所：マレーシアコタキナバル（KK）JCTIC

1. JCTIC での活動

私の JCTIC での活動も今年で連続 3 回目となりました。WSC の担当は月～金曜日の夕方開始です。月・火・水・木・金曜の設定で、時間帯 17：50～90 分と 19：30～90 分の 2 コースで、計 10 コースあります。WSC は、そのうちの 4 コースを担当しました。

火・木曜の 2 コースを担当し、事情により土曜 16：00～120 分コースを担当しました。月・水・金曜の内 2 コースは、会員の I さんの担当でした。

使っている教科書は、スリーエー・ネットワーク発行の「みんなの日本語」初級（全 50 課）です。4 回の授業で、1 課を終了するというペースです。火・木曜コースの場合、2 週間で 1 課が終わることになります。土曜コースは中級クラスで、語文研究社の「ニューアプローチ中級日本語基礎編」を使いました。

学習者はいずれも 5 人でした。昼は学校で学んでいる学生と会社で働いている企業人が、学習者の大半です。学習者の中には、中華系の人で普段はマレーシア語と英語を話し、中華系だから中国語ができ、現在は日本語と韓国語を勉強しているという人もいました。学習者の中には、3 年前から JCTIC で学んでいる人もいて、逆にこちらが励まされる状態でした。19：30 からのクラスは、「みんなの日本語」全 50 課中 39 課まで終わるという状況で、この先 50 課まで終わるのが楽しみです。

JLPT（日本語能力試験）を受ける人たちが増えてきているということで、N1（昔の 1 級）に合格した人もいたということです。KK では JLPT は、1 年に 1 回 12 月にしか実施されません。それだけに、皆さん良く頑張っているなという感じでした。なお、大きな都市では、1 年に 2 回実施されています。

2. スカイプによる授業に切替え

コロナウイルスの問題が発生し、3 月 18 日から活動制限令が発動されました。そのため、教室に集まっての授業ができなくなり、スカイプを使っての授業をすることになりました。ほとんどの学習者はスカイプの経験がありませんでした。JCTIC の事務担当のコリンさんにすべて教えてもらって何とかできたという次第です。つまり、私はマリナ・コートに居て、学習者は自宅でという状態です。

かなり遠方の学習者もいて電波の状態があまり良くなく、会話や画像が途切れ途切れになったり、中には全く通信ができない人もいるような状況でのスカイプ授業でした。黒板は使えないので、A4 用紙に大きく書いて、それをパソコンのカメラにかざして見てもらうという工夫も必要でした。そうは言うものの、こういう事態がなければ、私がスカイプを使うことはおそらく無かったと思います。よい経験でした。

3. コロナウイルスでの活動制限令下の生活

●マレーシアでの感染拡大

12 月 31 日中国での発生が WHO に報告され公になったが、1 月はまだ武漢での問題との意識が強かったように思います。2 月から 3 月にかけて世界的な問題になり始めた頃は、東南アジアでの感染者は多い方ではなかったようです。しかし、今から考えれば 1 月 25 日の旧正月頃の人々の大移動が、状況を大きく変えたのではないかと推測されます。

マレーシアでは 2 月末から 3 月にかけ、モスレムに